

平成 30 年度 第 9 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※今回のキーワードは、「(上司の・課長の) やり方」と、「(新しいことへの) チャレンジ」です。

[問い 1] 事例 I と II はキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例 I と II の違いを下記の 5 つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(感情 自問自答 経験 ものの見方 問題解決) (15 点)

事例 I では、CCt は CL の前に進めないという感情に寄り添うことなく、「課長のやり方」を一方向的に支持することで CL の内的な思考を阻止し、CL 自身の感情を置き去りにしているため、相談は展開せず問題解決へと繋がっていない。一方、事例 II では、CL の営業での経験からくる「新しいことへのチャレンジ」という一元的な価値観に焦点を当てることで、CL 自身が問題から距離を置き、自身の思い込みについて自問自答し、一元的から多元的なものの見方へと価値観の修正や気づきを促しているため、問題解決に導く展開となっている。

[問い 2] 事例 I の CCt5、CCt6 と事例 II の CCt6 のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15 点)

事例 I CCt5 相応しくない

CL5 の「やってみないと分からないですよね」の言葉を受けることなく無視した上に、CCt5「課長さんの指摘に従って」という発言は指示的であり、クライアント中心とは言えない応答である。

事例 I CCt6 相応しくない

CCt6「課長さんのやり方に慣れていかれる時期」の応答は、CL6「…集める気になれません」という相談者の気持ちに寄り添わず、CCt 側に立ち支持した応答であるため、CL7 では抵抗がみられる。

事例 II CCt6 相応しい

「チャレンジ」というキーワードに焦点を当て、その意味について深く考えることで、相談者自身が問題から距離を置き客観視できるよう促す応答であり、相談者に新たな気づきをもたらしている。

[問い 3] 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10点)

「新しいことへのチャレンジ」に意味を見出すという相談者の一方的な価値観にとらわれ、今までの経験が人事部でも活きたの思い込みがあり、自己理解が不足している。また、部署内で求められている働き方や部署の方針などについて上司などに確認することなく、コミュニケーションや仕事理解が不足している。

[問い 4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

異動した部署で前向きに頑張ってきた姿勢を支持しつつ、営業部と人事部での仕事内容や方向性の違いについてそれぞれ書き出すなどして比較し、明確にしてみることを勧める。併せて、人事部ではどういった働き方を求めているのかについて上司や同僚などに確認し、人事部でのニーズに合った相談者の働き方への気づきを促し、相談者が今までの経験や自身のスキルを活かしつつ、人事部でもやりがいをもって前向きに働いていけるよう支援していく。